



慶應義塾大学ビジネス・スクール

気づいてみたら身についていたもの

5

私は 38 歳で大学を卒業した。専攻したのは社会学である。卒業後は修士課程への進学も考えたが、結局、いわゆる一般事務の仕事に就いた。特別にキャリアがあるわけでもない女性の、しかも 40 歳を目前にした女性の就職はとて厳しかった。雇用形態は契約社員であるが、
10 採用担当者の話を真に受けると、大学の通信教育過程を修了したことを評価されての採用ではあったらしい。

久しぶりに仕事に就いたことそれ自体からは、一応の満足を得た。一緒に仕事をするようになった仲間は、大卒と高卒が半々くらいだろうか。大卒らしく働かなければと少し気負ったが、
15 実際に仕事をはじめてみると刺激が少なく、正直なところ、物足りない仕事だった。「ここは大学で学んだ知識が活かせる場ではない」と思えてならなかったからだ。ところが、我慢しながらも半年ほど仕事をしているうちに、ここは大学で学んだ知識を生かす場だとは言えないが、それでも私が最近になって身につけた「何か」が、間違いなく今の仕事に活
20 きていると考えるようになった。それはいったい何であるのか。これから綴る文章の中に書き出してみる。

このノートは慶應義塾大学ビジネス・スクール博士・修士課程併設科目「ケースメソッド教授法特論」の教材とするために、竹内伸一(ケースメソッド教育研究所)が協力者へのインタビューを行って作成した。(2004.10)

本ノートは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ノートの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp)。また、ノートの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ノートのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送は、これを禁ずる。

Copyright©2004 は慶應義塾大学ビジネス・スクールが保有する。